

# ウルグアイ農業の概要

(2010年7月)

## ○ 現地の概況

### (1) 農業生産(とうもろこし、大豆等)

#### ① 国土利用状況

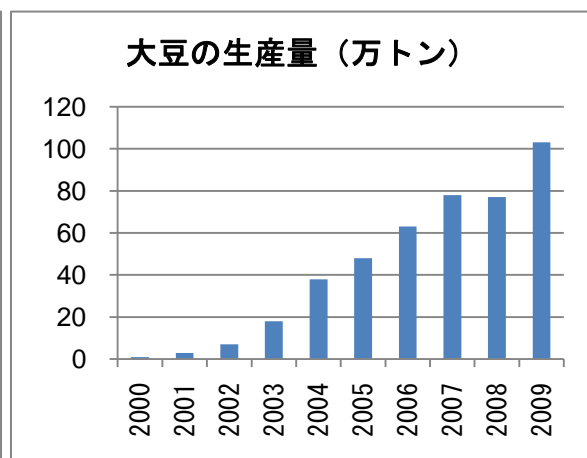
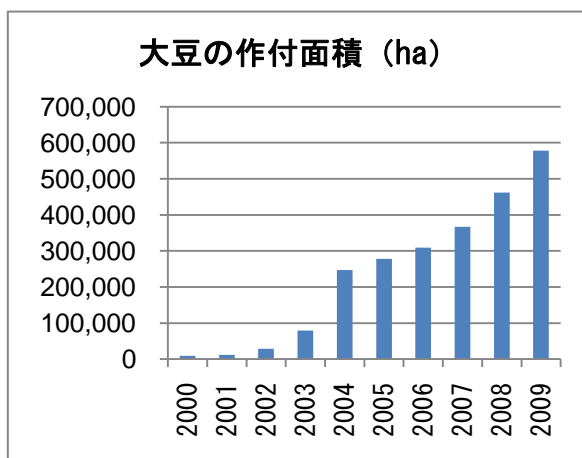
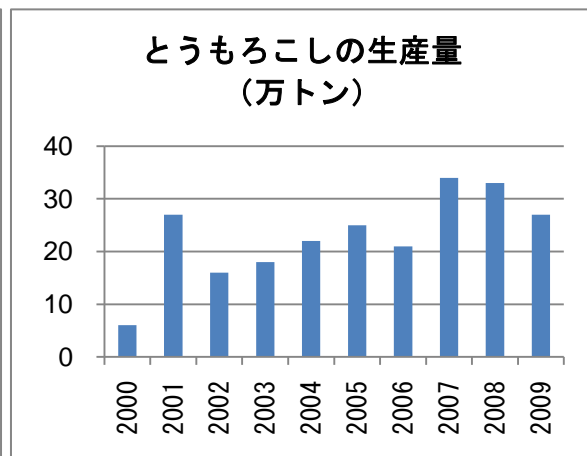
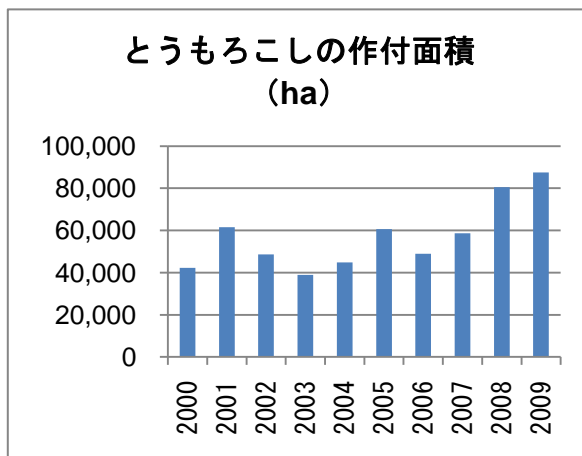
- ・ 国土面積 : 17,622 千 ha (100%) (日本の約 0.5 倍)
- うち農用地 : 14,683 千 ha (83.3%)
- うち耕地面積 : 1,383 千 ha (7.8%)

#### ② 生産品目・生産量

- ・ とうもろこしの作付面積及び生産量は、増加傾向。
- ・ 大豆の作付面積及び生産量は、近年増大。2009年における生産量は、前年(約 77 万トン)より約 33%増加し、100 万トンの大台(103 万トン)に到達。

とうもろこし : 6 万トン(2000年) → 27 万トン(2009年)

大豆 : 0.7 万トン(2000年) → 103 万トン(2009年)



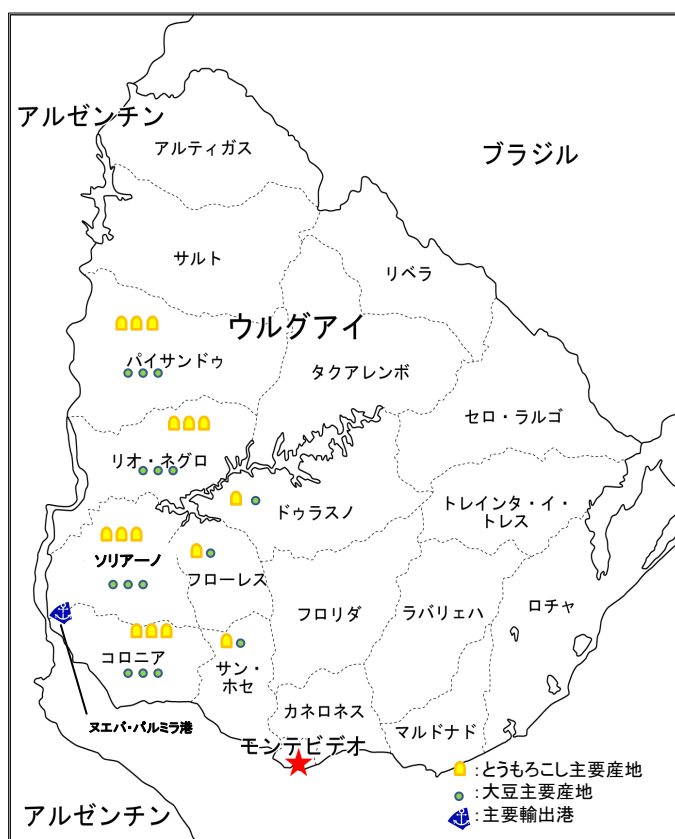
資料 : ウルグアイ東方共和国農牧水産省

### ③とうもろこし及び大豆の品質

- ・とうもろこしは、約半量が遺伝子組換え作物で、ほとんどすべてが飼料用。
- ・大豆は全て遺伝子組換え作物。

### ④ とうもろこし及び大豆の主要生産地

- ・とうもろこし及び大豆の主要生産地は、西部のウルグアイ川流域沿岸（パイサンドウ県、リオネグロ県、ソリアーノ県及びコロニア県）。近年は、これら地域の東側に隣接するドゥラスノ県、フローレス県及びサンホセ県においても生産地が拡大。



### (2) 集荷・輸送・輸出ルート及び施設

- ・ウルグアイ川岸の港湾整備を推進。
- ・ヌエバ・パルミラ港は水深の問題で、パナマックス級船舶は積荷を満載できず、残りの積載可能重量分の荷を、他都市に立ち寄って積載。

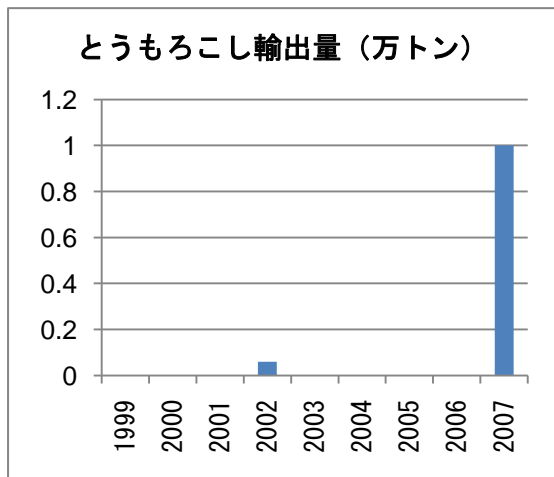
### (3) 輸出

- ・とうもろこしの輸出量は少なく、輸入が超過（2007年では、生産量34万トンに対して、輸入量7.4万トン、輸出量1万トン）。

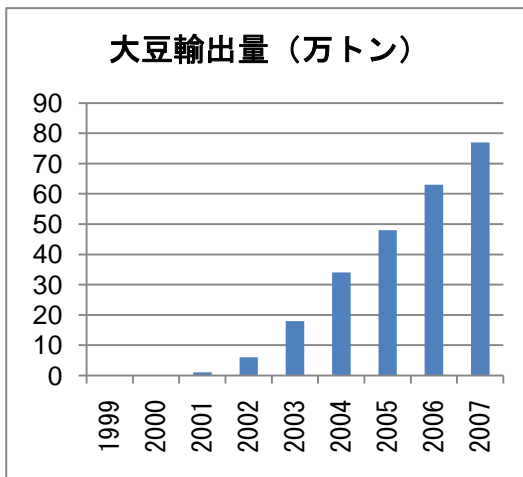
- 大豆については、近年、輸出量が年々増加。農産物全体の輸出額に占める大豆の割合は8.6%(2007年)。

とうもろこし：0万トン(2000年) → 1万トン(2007年)

大豆：0万トン(2000年) → 63万トン(2007年)

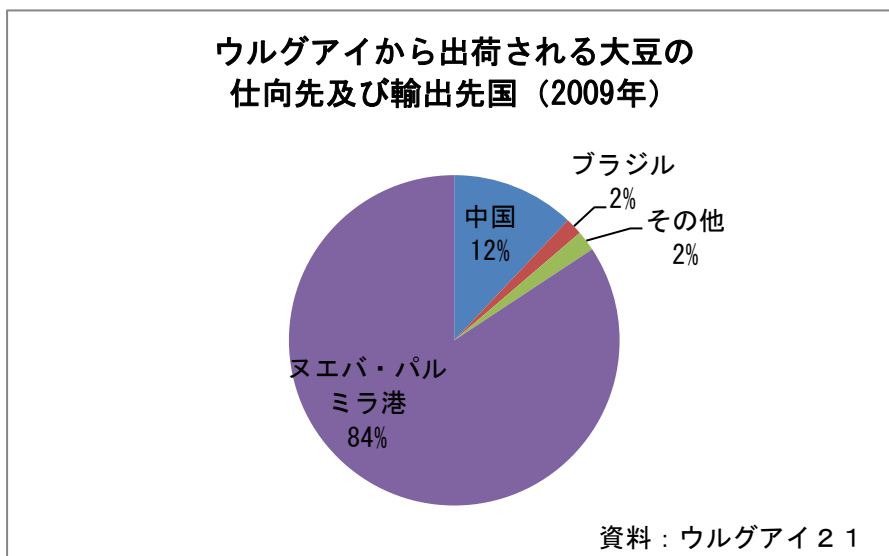


資料:FAOSTAT



資料:FAOSTAT

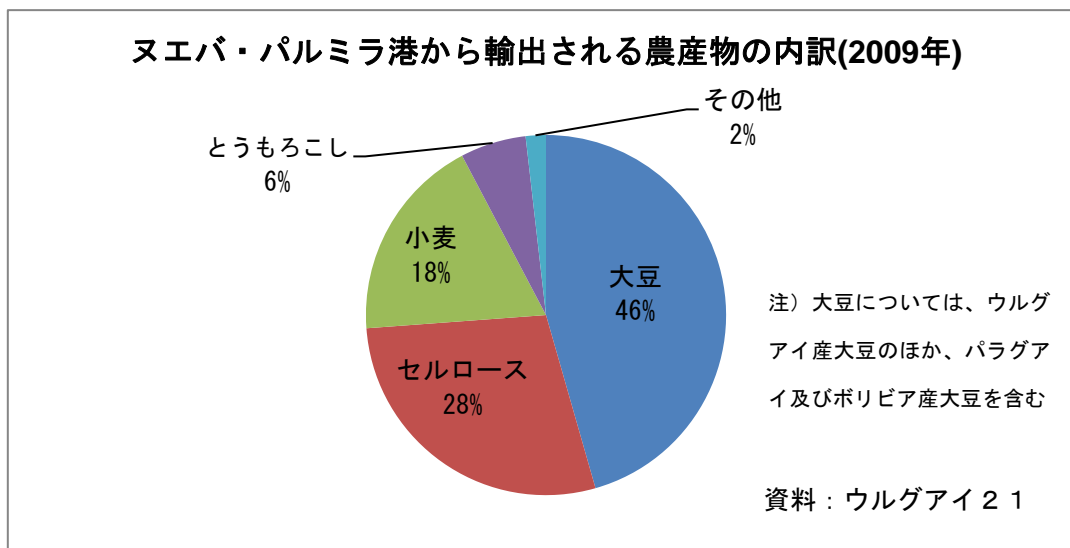
- 大豆の輸出先国等は、ヌエバ・パルミラ港 9.5万トン(84%)、中国 1.4万トン(12%)、ブラジル 0.2万トン(2%)等。



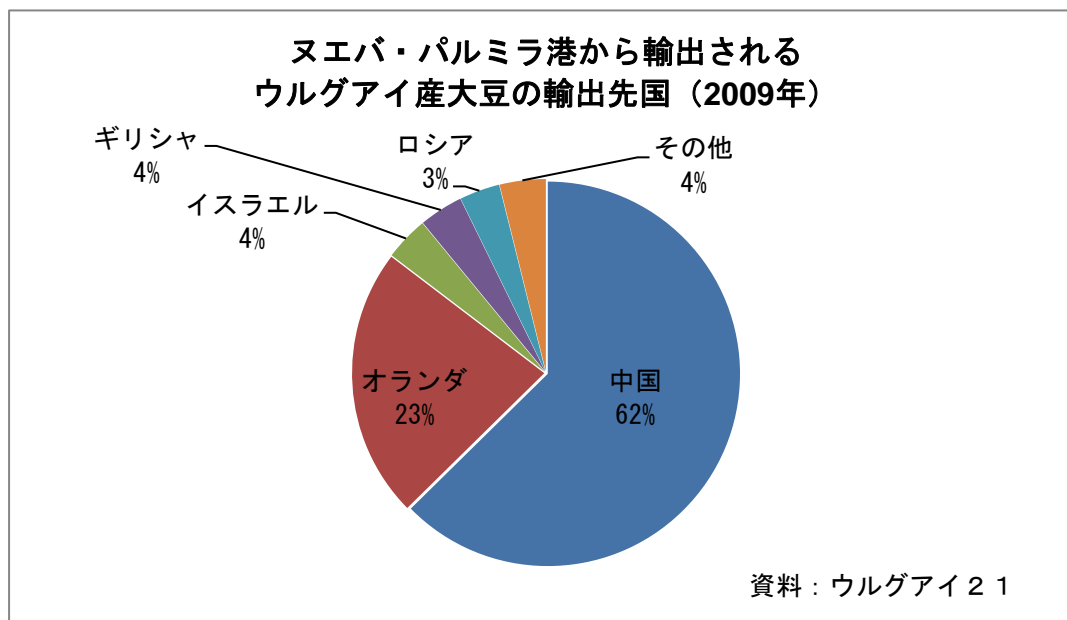
資料：ウルグアイ 21

注) ヌエバ・パルミラ港等のフリーゾーンでは、無税で農産品等を搬入し、加工した後に出荷することができるため、パラグアイ及びボリビアで生産された大豆が、河川輸送等でヌエバ・パルミラ港を経由し、各国に輸出されることが多い。

- ・ヌエバ・パルミラ港から輸出される農産物は、大豆 147 万トン (48%)、セルロース 91 万トン (28%)、小麦 59 万トン (18%)、とうもろこし 19 万トン (18%) 等。



- ・ヌエバ・パルミラ港から輸出されるウルグアイ産大豆の輸出先国は、中国 47 万トン (62%)、オランダ 17 万トン (23%)、イスラエル 2.7 万トン (4%)、ギリシア 2.7 万トン (4%)、ロシア 2.5 万トン (3%) 等。



(4) 国際協力

<主な技術協力プロジェクト>

○ 農薬登録プロセス強化に向けた環境評価システムの構築支援

: 2008年5月～2011年5月

- ・環境の観点からの農薬評価システムを構築することで、農薬登録制度を強化することを目的。

(5) 輸出規制、WTO加盟

- ・輸出規制なし。
- ・1995年1月1日、WTO加盟。

**【参考インターネットサイト】**

- <http://faostat.fao.org/>
- [http://gwwweb.jica.go.jp/km/km\\_frame.nsf](http://gwwweb.jica.go.jp/km/km_frame.nsf)
- <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/Index.html>